



コラム
「オリーブのおはなし」

神戸大学 名誉教授
インターナショナル
オリーブアカデミー神戸 顧問
中西テツ



オリーブ
◆◆ 第1回 神戸はじめ物語～神戸阿利襪園 ◆◆

2017年は、神戸開港150年の節目の年。コーヒーも、ラムネも、映画も、水族館だって、最初は港からやって来たそうですね。その中にオリーブが入っているのをご存じでしたか？

日本で初めてのオリーブ園は、開港まもない1879（明治12）年、居留地背後の北野に生まれました。当時はまだ段々畑だったところに、フランスのパリからやって来たオリーブ550本が植えられ、3年後の1882（明治15）年には、搾油や塩蔵品の製造に成功しています。

「こんなに純粋なオイルなら、おいくら出しても買しましょう。自分の国のオイルは混ぜ物が多くて、こんなに純粋なものはありません。」

そう言って初の神戸産オリーブオイルを絶賛したのは、フランスから来日し、明治政府の顧問等を務めたお雇い法律学者、ポアソナードさん（1825-1910）です。

オリーブ園を作ったのは明治政府でした。しかし、どうしてこんな時代にオリーブ栽培に取り組んだのでしょうか。

しばらく前、群馬県の富岡製糸場が世界遺産に登録されました。ここは1872（明治5）年に明治政府が設立した器械製糸工場です。神戸にも税関の隣に、昔の生糸検査所だった建物（現デザイン・クリエイティブセンター神戸、愛称KIITO）があります。当時は居留地からたくさんのお茶や生糸が輸出されました。その



神戸北野ホテル前に設置されている国営神戸阿利襪園跡モニュメント